2017年2月23日（木）河北新報掲載

追悼碑建立に100万円を寄付

山一地所と深松組

不動産業の山一地所と建設業の深松組（ともに仙台市）は22日、東日本大震災犠牲者の鎮魂と追悼のモニュメントを設置する建立プロジェクト（会長・藤崎三郎助藤崎社長）に寄付金を100万円ずつ贈った。

山一地所の渡部志朗会長と深松組の深松努社長が河北新報社本社内に置かれた事務局を訪れ、実行委員長の峯岸良造一条工務店宮城社長に目録を手渡した。

渡部氏は「震災を忘れず次世代に伝える趣旨はすばらしい」、深松氏は「風化が進む中、モニュメントは被災地の思いの象徴になる」と話した。峯岸氏は「多くの寄付を意義あるものにしたい」と感謝した。

建立プロジェクトは2013年3月、県内の企業・団体が設立。国などが石巻市に整備する復興祈念公園に、仙台市出身でイタリア在住の彫刻家武藤順九さん制作のモニュメント設置を目指している。

峯岸実行委員長（左）に目録を手渡す（右から）渡部会長、深松社長